



二葉とこども

第18号

発行元：社会福祉法人 二葉保育園「二葉支援の会」

発行日：2014年12月1日

今、社会福祉法人に求められている課題

社会福祉法人の見直し

現在、社会福祉分野へ高齢者福祉、保育を中心に企業が参入し、「企業と社会福祉法人の違いは何か」が問われています。私は全国児童養護施設協議会副会長という立場で、国レベルでの「社会保障審議会・福祉部会」の検討に、傍聴や会長代理出席という形で出席して「社会福祉法人制度の見直し」の論議に参加しています。

その中で「社会福祉法人」は社会福祉事業を主たる事業とする非営利法人であり、株式会社等の経営主体と異なる役割を果たしていることを、もっと社会にアピールしていかなければならないと考えています。その中心的な課題は「地域における公益的な活動」であり、私たち社会福祉法人二葉保育園の活動からすると、地域の子育て支援や家族支援のさまざまな活動がそれにあたるでしょう。

社会福祉法人二葉保育園の責務

私たち社会福祉法人二葉保育園の事業は親の就労等で十分な保育を受けることが出来ない児童への

支援、安定した養育環境が損なわれている児童への支援、ひきこもりの児童、虐待を受けている児童、親の様々な問題についての相談と支援、地域に保育や養育に関わってもらおう活動などです。これまでも一時保育やトワイライト事業（夕方の一時保育）、子どもショートステイ（1週間を限度に乳幼児を預かる）事業、子育てひろば事業、ホームスタート（子育て中の親のための家庭訪問）事業など実践してきました。しかし、もっと丁寧な地域の子育て支援をしようと思うと、現在の事業だけでは質量ともに追いついていないのが現状です。

来年度から「社会福祉法人には地域へ社会貢献をすること」が義務付けられることになるでしょう。この制度変革の期に、社会福祉法人二葉保育園が明治、大正、昭和、平成と115年間実践してきた児童福祉事業を振り返り、必要であれば地域の困った家庭への配食サービスをしたり、保育園でありながら親子を泊めたりしていた時代を持つ二葉として出来ることは何か、やらなければならない公益的な

活動は何かを真剣に考えねばならない時に来ています。

社会福祉法人二葉保育園の今

昨年度、二葉学園の改築、今年度、二葉南元保育園と法人本部の改築、そして今年度から2年半をかけて二葉むさしが丘学園の改築を計画しています。二葉むさしが丘学園の改築も公平な入札方式で松井建設株式会社が落札し、11月からいよいよ工事が始まりました。

法人本部も以前の本部事務所より3倍ほどの事務所のスペースとなり、これから法人全体でもっと広範囲の事業や活動を行うに相応しい法人本部の拠点づくりが出来ました。今後、地域の皆様からの支えによって出来上がったこれらの新しい施設を土台に、子どもたちとその家族、そして子どもたちが暮らす地域のための活動も実践していきたい所存です。

社会福祉法人二葉保育園
常務理事 武藤 素明



家族をつなぐ存在として

乳児院では、生後まもなくの赤ちゃんから就学前の子どもたちが生活しています。子どもたちは様々な事情から家庭での生活が困難となり、児童相談所を介して乳児院に来ます。

家族の中には、自分の子ども・孫が施設にいるのだというに負い目や不安を感じる方がいます。また、家族の方から「しばらく会っていなかったから私たちのことを忘れてしまっているのではないのでしょうか」と言われることもあります。子どもたちは家族に特別な思いを持っていて、はっきりと家族のことを覚えています。

一番になること

毎年夏に行われている都内の児童養護施設対抗「江戸っ子杯ドッチボールの部」で、今年度、二葉むさしが丘学園は優勝することができました。私は監督として子どもたちと関わる中で日々成長していく子どもたちの姿を間近で見ることができました。昨日までは泣きながら練習していた子が今日は歯を食いしばりながら一生懸命声を出し練習する姿には、毎回感動させられました。約三ヶ月の厳しい練習に耐え、金メダルを取った時の思いは、子どもたちはもちろんのこと、私も児童指導員を続けていく中で一生思い出に残ることだと思いました。

子どもたちは日常の中で、なかなか“一番になる”という経験をすることが多くありません。その中で今まで

子どもを理解すること

二葉学園での日々の生活の中で、私たちは子どもとのやり取りを繰り返します。そして、お互いに分かり合えたときには安堵感が生まれます。私はそこに子どもを理解した瞬間があると思っています。しかし「どうしてこの子はそんな考えになるのか」「どうして私の思いや考えが伝わらないのか」など、「どうして」を繰り返し、子どものことで思い悩んでしまうこともあります。果て



しなく、時にはその困難さで私を飲み込もうとしてくるのです。

そういったとき私は、「どうして」から「たぶん、こんなことかもしれない」と想像すること

二葉乳児院 家庭支援専門相談員 新沼 彩夏

しかし、子どもたちはまだ幼いため、その気持ちを言葉で伝えることがなかなかできないことが多いです。そんな時、私たち職員は「お家のみんなが大好きなこと」「いつでも会いに来てくれるのを待っていること」など、子どもたちの気持ちに寄り添って、家族に子どもの気持ちをできる限り言葉にして伝え、また会うことができない間の家族の想い子どもたちに可能な限り伝える努力をします。

離れている時間の不安は子どもも大人も同じものだと感じます。家族に代わって子どもたちをお預かりしている私たちが、家族と一緒に生活できる日までお互いの想いをつないでいきたいと思っています。

二葉むさしが丘学園 児童指導員 宮崎 澄人



練習してきたことが報われる、結果が出るという経験はこの先、生きていく中で大きな糧となると私は思っています。

そして、私が担うべき役割とは、子どもたちが頑張っている姿、成長している姿を子どもたちの家族に伝えていくことだと思っています。面会の際や、電話越しで「よかったね、頑張ったね」と優しく子どもたちに声をかける家族の姿を目の当たりにしながら、少しでも「子どもとその家族への支援」に繋がるような手助けになればと思っています。

二葉学園 児童指導員 星 直倫

へ転換してみることにしています。これが意外と発見や気づきに繋がる人が多いのです。この想像を続けていると、「たぶん、その子どもが家族や親から受け取っているものがたくさんある。そこにルーツがあるのではないかと、思いや考えのルーツについて思い巡らすようになります。親のこと、親子の想い、親子が繰り返していた生活を想像していくことで、気づくことがあるのです。

だから親に想いを馳せることは、子どもを理解する中でも大切なのではないかと思います。理解することには、顔を合わせ、言葉を重ね合わせたことで得られる理解と、離れた空間で、お互いに想像することで得られる理解の両方があると思います。そして私は親を尊重することが子どもの自尊心を育むために大切であり、親を理解することは、子どもを理解することに繋がっていると思うのです。

子どもと保護者の安心できる場所

二葉くすのき保育園 保育士 中川 優

私は1歳児クラスの担任をしています。1歳児から入園する子どもは毎年数名おり、保護者の育休取得が増えている関係で、近年は月齢の低い子どもが入園する傾向があります。特に家庭で一緒に過ごしてきた親子の場合は、親と離れた経験が少ないため親との結びつきが強く、園生活を受け入れるまでに時間がかかることもあります。私たちは育児担当制をとりいつも同じ保育士が愛情を持って関わり、子どもの想いを十分に受け止め、包みこむこと、保育園では母親に代わる安心できる存在になることに努めると同時に、保護者の気持ちに寄り添うことを大切にしています。

毎朝大泣きする我が子に後ろ髪を引かれ仕事へ向かい、どう過ごしているか



という不安や心配が募り、罪悪感に苦しむ保護者もいます。母親が命を懸けて産



んだ大切な子どもの「命」を預かる場所として責任を持ち、その子らしく過ごせる環境を整え、子どもの安定した姿を目の当たりにすることで保護者も仕事に邁進できるのではないかと思います。

「この保育園に入れて本当に良かった」という言葉を保護者から頂いた時には子どもの安定が保護者の安心に、そして園への信頼に繋がったことを実感し、素直に嬉しい気持ちになります。これからも子ども達を支えることで保護者の支えになれるよう日々の保育に努めていきたいです。

おかげさまで、新園舎での生活が始まりました！

二葉南元保育園 保育士 大槻 麻実

新園舎での生活も3ヵ月が経ちました。子どもたちも職員も新しい環境に慣れるまでに少し時間がかかりましたが、今では「新しい保育園、いいね」と言って、元気に笑顔で毎日を過ごしています。運動会も終わり、散歩へ出かけることを再開しましたが、丁度その頃から Dengue 熱対策で室内活動が長く続き、どのクラスも子どもたちが楽しく過ごすためにどうやって保育を工夫すべきかを考えました。1階のホールと3階の遊戯ホールをクラスごとに声を掛け合って使ったり、園庭、屋上などで体を動かしたり、また0歳、1歳、2歳は2つのユニットを月齢が低いグループと月齢が高いグループに分かれて活動することなど、これまでの園舎ではできなかったことも広く多機能な新園舎では実践することができました。こうして、散歩に出られなかった期間も子どもたちは屋内でも有意義に過ごすことができました。

見学者も増えています。来年度から定員がこれまでの倍近くに増えることもあり、二葉南元保育園へ子どもを預けたいと思っている方々が、どんな保育園なのかを見学しにいらっしやいます。こうした機会に園舎だけでなく、保育内容もアピールしていかななくてはならない

と感じます。乳児クラスは今までのように少人数保育を続けていますが、2歳児クラスはその日の子どもの体調や一人ひとりの状況に合わせて、また活動内容によっては2つに分けて活動をしています。今後、年からは少人数の良さを活かしつつ、幼児クラスへの進級を踏まえて1つに統合し、今よりは多い人数で生活していく予定です。幼児クラスは、異年齢保育ではなく、年齢別にクラスを編成していく予定です。今年度中は異年齢保育を実践していきますが、それぞれの年齢に応じた取り組みができるように、今後は年齢別の内容と計画を立てて活動していく予定です。

最後に新園舎での生活を始め、職員に求められていること、そしてどんな園をめざしたら良いのかについて考えてみました。子どもを安心して預けられることやけがや事故がないことは大前提ですが、私たちが大切にしていることは、子ども一人ひとりの存在や個性を認め、子どもたちの良い部分を一つでも多く見つけ、伸ばし、成長を支えていかれるような保育ができるように、日々試行錯誤することだと思っています。

(二葉南元保育園 新園舎の写真は次ページをご覧ください)

新しくなった二葉南元保育園



園庭



園舎

ホール利用風景



ホール



乳児室廊下

0歳児室



1歳児室



エントランス



社会福祉法人二葉保育園では、施設の改築や子どもたちの養育、法人運営のサポートをするために「二葉支援の会」という後援会を運営し、ご支援下さる方から資金をお寄せ頂いております。同会に入会をご希望の方は、年会費 5,000 円をお振込の上、法人本部までご連絡下さい。また、ご寄付をいただけることも大歓迎です。ご理解とご支援を心よりお待ちしております。

当法人への会費、寄附は社会福祉事業への寄附として寄附金控除の対象となり、確定申告の際に減税措置が受けられます。

郵便振替 口座番号 00120-2-30321 口座名義 社会福祉法人二葉保育園

銀行振込 三菱東京 UFJ 銀行 支店名：四谷支店 口座番号：普通 0506208 口座名義：(社福) 二葉保育園 理事長 遠藤久江

クレジットカード 社会福祉法人二葉保育園ホームページの「寄附のお願い」ページからお手続き頂けるようになっております。

社会福祉法人 二葉保育園 概要

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町 4 番地
 TEL:03-3341-1205 / FAX:03-5368-1969
 設立：1900 年 (明治 33 年)
 理事長：遠藤 久江
 常務理事：武藤 素明
 理事：河津 英彦、網野 武博、押切 重洋、福田 敏朗
 監事：園 武友、乾川 日出夫

二葉乳児院（「地域子育て支援センター二葉」併設）

院長 都留 和光
 児童定員 40 名 職員 51 名
 住所：〒160-0012 東京都新宿区南元町 4 番地
 TEL: 03-3359-4578 / FAX: 03-3359-4596

二葉学園

統括園長 武藤 素明 園長 小倉 要
 児童定員 52 名 職員 51 名
 住所 本園：
 〒182-0035 東京都調布市上石原 2-17-7
 TEL:042-482-2578/FAX:042-480-5200

二葉南元保育園

園長 工藤 有子
 児童定員 110 名 職員 40 名
 住所 本園：
 〒160-0003 東京都新宿区南元町 4 番地
 TEL:03-3351-3819/FAX:03-3357-3707

二葉くすのき保育園

園長 八木澤 真理子
 児童定員 100 名 職員 35 名
 住所：〒182-0022 東京都調布市国領町 3-8-15
 都営くすのきアパート 1 号
 TEL:042-487-8309/FAX:042-487-8309

二葉むさしが丘学園

統括園長 武藤 素明 園長 黒田 邦夫
 児童定員 66 名 (グループホーム 12 名含む)
 職員 51 名
 住所 本園：
 〒187-0011 東京都小平市鈴木町 1-62-1
 TEL:042-344-9911/FAX:042-345-7836